

第1日

A会場

B会場

C会場

D会場

E会場

10:00	<p><b>L-1</b> <b>加藤隆文</b> プラグマティズムと実在： パースの実在論と実践的 実在論をめぐって</p>	<p><b>L-2</b> <b>安田清一郎</b> A vagueness in Quine's "Epistemology naturalized"</p>	<p><b>L-3</b> <b>太田陽</b> 情動についての消去主義 は擁護可能か</p>	<p><b>L-4</b> <b>北野孝志</b> 技術評価の意義に関する 哲学的考察</p>	
10:50					
10:55	<p><b>L-5</b> <b>伊勢俊彦</b> 因果性・変則事態・感情</p>	<p><b>L-6</b> <b>OSBERG, Andrew</b> Room to Breathe: Freeing contemporary philosophy of its science and engineering baggage</p>	<p><b>L-7</b> <b>山口尚</b> 日本自由意志論史序説— —丹治信春の岐路</p>	<p><b>L-8</b> <b>齊藤了文</b> サステイナブルな社会に 向けての技術論的考察</p>	
11:45					
11:50	<p><b>S-1</b> <b>成瀬翔</b> 社会的現実とメイクビリーヴ</p>	<p><b>S-2</b> <b>Hiroyuki Matsumoto</b> Category theory explains the reversible transition of physiological states and its disruption through the modulation of duality</p>	<p><b>S-3</b> <b>石田柊</b> 帰結主義的差別論の諸問題 ——差別未遂の悪さはいかに 説明されるか</p>	<p><b>S-4</b> <b>遠藤 耕二</b> ヘイト・スピーチにおける規制 および対抗言論の是非</p>	
12:15					

昼休み・理事会

13:15	<p><b>L-9</b> <b>豊島史彬</b> 傾向的因果理論を評価する： 反事実条件的分析との 対比から</p>	<p><b>L-10</b> <b>中根杏樹</b> 理由の内在于主義と価値の 非主観性</p>	<p><b>L-11</b> <b>佐藤広大</b> 〈作品の意味〉と〈作者の 意図〉——仮説的意図説 への挑戦——</p>	<p><b>L-12</b> <b>勝亦佑磨</b> 目的論的機能主義に基づく 志向性の自然化——学 習に基づく表象論の検討</p>	<p><b>L-13</b> <b>小松原織香</b> 環境問題と紛争解決 「ディープ・エコロジー」から 「修復的正義」へ</p>
14:05					
14:10	<p><b>L-14</b> <b>清水雄也</b> 因果の概念工学へ——規 定的な概念研究の擁護</p>	<p><b>L-15</b> <b>和泉悠</b> 「土人が」の意味論と語用 論</p>	<p><b>L-16</b> <b>谷川嘉浩</b> Change by Design! でも、デ ザイナーはどこにいるのか ——パパネック、ミルズ、セ ネット、つまり、デザイン思考 とプラグマティズム——</p>	<p><b>W-1</b>  杉本俊介 井戸田博樹 岡部幸徳 中谷常二</p>	<p><b>W-2</b>  吉永明弘 山本剛史 熊坂元大 寺本剛</p>
15:00					
15:05	<p><b>L-16</b> <b>高崎将平</b> 操作論証への応答</p>	<p><b>L-17</b> <b>遠藤進平</b> 脅迫から考える合理性</p>	<p><b>L-18</b> <b>林和雄</b> J.S.ミルにおける快樂の質 と主体の変容</p>	<p>ソーシャルメディアのビジ ネス倫理</p>	<p>ローカルな環境倫理に関 する新しい研究アプローチ</p>
15:55					
16:00					

シンポジウム

茶菓子懇親会・応哲賞発表

第2日

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:00	L-19 <b>新川拓哉</b> 意識についての問いの体系的見取り図	L-20 <b>森岡正博</b> 人称的世界はどのような構造をしているのか	L-21 <b>太田紘史</b> 実験哲学への誤解反論に潜む誤解: フランクファート型事例の場合	L-22 <b>鈴木真奈</b> ゲーミングツールnocobonのクリティカル・シンキング授業への応用例	L-23 <b>岡本慎平</b> 構成主義者にとって「行為者モドキ(shmagency)」問題はどれほど致命的か?
10:50					
10:55	L-24 <b>鈴木聡</b> Scale Types in Measurement-Theoretic Semantics	L-25 <b>山森真衣子</b> 哲学的自己言及のパラドクスは解決可能か?	L-26 <b>稲岡大志</b> 哲学者は「ポピュラー哲学」から何を学び、何を期待することができるか?	L-27 <b>高野保男</b> 言語ゲームの外部、あるいは、教育と哲学の関係性について	L-28 <b>太田 雅子</b> 無知の責任と無知による行為の責任
11:45					

昼休み・ポスター発表コアタイム(11:50~12:50)

13:00	総会				
13:30					

	W-3	W-4	W-5	W-6	W-7
13:40	清水右郷 戸部真澄 藤岡典夫 林岳彦	金光秀和 河野哲也 久木田水生 直江清隆 鈴木俊洋	成瀬尚志 笠木雅史 稲岡大志	神崎宣次 籠橋一輝 江間有沙 太田和彦	服部俊子 堀江剛 大北全俊 樫本直樹
15:40	予防原則のメジャーアップデート	技術哲学のアクチュアリティ: 人とモノの関係の考察	型と暗記	食と農のための応用哲学	「医療の組織倫理」という視点

	W-8	W-9	W-10	W-11	W-12
15:50	神崎宣次 杉本俊介 大庭弘継 岡本慎平 清水雄也	出口康夫 加藤猛 工藤泰幸 唐沢かおり 大塚淳	矢田部俊介 朱喜哲 大西琢朗	寺本剛 鈴木俊洋 齋藤宜之 竹中真也	奥田太郎 唐沢穰 膳場百合子 松村良之 村上史朗
17:50	応用哲学としての宇宙倫理学の現在	Society 5.0を応用哲学する: IT システムと社会規範	論理学の哲学と推論主義	農業という技術について考える	責任と法をめぐる「素朴理解」に関する実証研究とその哲学的含意

ポスター発表(ポスターは両日をつうじて掲示。コアタイムは4月8日(日)の11時50分から12時50分。)

P-1	P-2	P-3	P-4
<b>Hiroyuki Matsumoto</b>	<b>太田和彦</b>	<b>木山幸輔</b>	<b>大庭弘継</b>
Ontology log illustrates discrepancy among knowledge representations built in different disciplines	日本型環境倫理は誰から何を期待されているのか—環境政策評価と自然観の分析	デモクラシーへの人権の論証に関する予備的考察	トロッコ問題の「適用」: 人道的介入にみる取り扱い上の注意